

子ども食堂 地域連携の力に

看護学生

(京都府 37)

家で十分な食事が取れない子どもに食事を提供する「子ども食堂」が増えているという記事(2日)を読み、たいへん有意義な事業だと思いました。

先月、学校の実習で産婦人科外来と病棟、保育園の子育て支援センターに行きました。妊娠と出産そして子育てという一連の過程を、地域社会でどのように支えるべきか考える実習です。私自身も3人の子どもの育ててきました。が、社会からの孤立を感じる時期もありました。児童館や子育てサークルに通って居場所を作ってい

たことを思い出し、子育て支援が子どもの成長に欠かせない事業になっている現状を実感しました。

昔のように隣近所みんなで子どもを育てる時代ではなくなりましたが、安心して子育てできる環境を社会全体が連携して作る必要があります。食事の場を提供し、居場所を作る役割を担う「子ども食堂」は子どもの成長発達にとっても良い影響を与えていると思います。

時代と共に、社会の宝として大事にされるべき子どもの環境も変わりつつあります。一人でも多くの子どもが健やかに成長できるように、地域全体で見守っていく事業は今後更に必要となるはずです。